

【研究公開のお知らせ】

研究へのご協力とデータ使用に関するお願い

当院では以下の臨床研究を実施しております。本研究は、過去に業務改善の一環として実施されたアンケート調査結果、および業務記録のみを使用する「後方視的観察研究」です。対象となるスタッフの方々に新たな負担等をお願いすることは一切ありません。本研究の趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1. 研究課題名

探求アプローチを用いたカンファレンスが ICU 看護師のリスク感性と思考プロセス共有に与える影響

2. 研究の目的および意義

自部署の ICU では、レベル 0 インシデントの提出を促しており、月 40 件を目標として掲げています。

2025 年度は月平均 35.9 件、このレベル 0 インシデントの中からエリック・ホリナゲルのレジリエンスエンジニアリングを元にした選定基準として、「看護師の気づきで治療方針や指示変更が起きた事例」「リスク要因に気づかず経過していたら重大インシデントへ移行していた可能性がある事例」「多数のスタッフが関わっている事例」「看護師の経験値からリスクを予測し回避することができたと解釈することができる事例」の 4 つの指標をもとに GOODJOB レポートを選出しており、選出方法は ICU 師長が選定基準をもとに選出を行っています。しかし、今まで GOODJOB レポートの有効活用ができておらず、思考のプロセスの共有ができていない現状にありました。今回、GOODJOB レポートを用いてカンファレンスを実施し、スタッフ全員のリスク感性、危険察知能力の向上を目標とし、このカンファレンスを行う上で新たにツールを作成、作成したツールを「探求アプローチ」と名付け実施していくこととしました。

3. 研究の対象者

2025 年 5 月～2026 年 5 月の期間に当院 ICU に在籍し、勤務していた看護職員

4. 使用するデータ

・当該「探求アプローチ」として実施したカンファレンス記録

5. 個人情報の保護

使用するデータは、収集された時点で個人名や詳細な所属が特定できないよう、完全に符号化が施されています。学会発表や抄録作成の際にも、すべて統計的な集計値としてのみ処理を行うため、個人のプライバシーが外部に漏れることは一切ありません。

6. 研究へのデータ提供を拒否したい場合

「自分のインシデントデータを使ってほしくない」と思われる方は、いつでも下記の問い合わせ先までお申し出ください。
お申し出をいただいた方のデータは、直ちに研究対象から除外いたします。なお、データ使用を拒否された場合であっても、勤務上の評価や就業環境等において、一切の不利益を被ることはありません。

7. 問い合わせ先

研究責任者: 看護部 ICU 所属 看護師 河野万由子

連絡先: 院内内線 502